

会 議 錄 (要点記録)

会 議 名	第38期小金井市公民館運営審議会第2回審議会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	令和7年11月19日(水) 午前10時00分から午前11時30分		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出 席 委 員	大坪委員長 武田委員 福井委員 関委員 嶋田委員 池本委員 川上委員 小勝委員		
欠 席 委 員	倉持副委員長 石原委員		
事 務 局 員	鈴木公民館長 落合事業係長 八方事業係主査 諏訪庶務係長		
東分館・緑分館・貫井北 事業運営受託者	NPO法人市民の図書館・公民館こがねい 鈴木東分館長 伊藤緑分館長 村山貫井北分館長		
傍聴の可否	可	傍聴者数	1名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 開会 2 第1回公民館運営審議会の議事録の承認について 3 報告事項 (1) 第47回全国公民館研究集会東京大会の報告について (2) 公民館事業の報告について 4 審議事項 公民館事業の計画について 5 その他 6 閉会 配付資料 送付資料 (1) 公民館事業の報告 (2) 公民館事業の計画		

会議結果

1 開会

【大坪委員長】

これより第38期第2回公民館運営審議会を開催する。

今期初めてとなる武田委員に自己紹介をお願いする。

【武田委員】

緑小学校の校長で、今年度4月から、八王子市から転任してまいりました。前期に引き続き今期もよろしくお願いします。

【落合事業係長】

前回質問のあった西山佳孝さんのプロフィールは、東京都公民館連絡協議会事務局に問合せしたが、特に出されていないとのことであった。梶野町にあるタウンキッチンの代表取締役等を以前されていたようである。

2 第1回公民館運営審議会の議事録の承認について

【大坪委員長】

第1回公民館運営審議会の会議録については承認ということでよろしいか。

(異議なし)

3 報告事項

(1) 第47回全国公民館研究集会東京大会の報告について

【大坪委員長】

第47回全国公民館研究集会東京大会は、11月12日と13日に有楽町の東京国際フォーラムで開催されたもので、公民館職員等が1,000人ぐらい参加していた。

内容は表彰等の式典のほか、関西大学の建築学部の教授でコミュニティーデザイナーの山崎亮さんによる「地域のミライをひらく公民館」をテーマとした基調講演が行われた。

戦後から約80年、公民館は、集う、学ぶ、結ぶというテーマの下に存在しているが、アフターコロナ、デジタル化などの社会変化で意義や在り方が、昔に比べて徐々に変化する中で、どのようなイノベーションを起こせば、この先、広い世代が一緒に利用できるかの話であった。

公民館がなく、市民が集う場を作ることはなかなか難しいが、公民館活動を違う形で再現し、表現していくような活動をされていて、一つの例では、福島の猪苗代で20年ぐらい前に造られた酒蔵をリノベーションした「はじまりの美術館」の開館に携わり、市民が集まり、どんなものにしたらすばらしいだろうか、どんな活動をしようかを手作りで一つずつつくり、活動の中でうまくいかなかったことも、その一つ一つが思い出で、活動した記録が刻み込まれ、全てを合わせたときに、公民館活動と言える活動になるのではないかとのことであった。

東京では何でも学びたいと思えば学べ、公民館の事業に参加することもでき、そうではなくて、必要なことを自ら主体的に動き、それを一つの形にするのは、新しいこ

れからの公民館という活動の将来像なんだということで、公運審で各公民館の企画に携わる中で、一市民として考えていくれば市民にとっての公民館が、いいものになるのではないかという感想である。

【八方事業係主査】

委員長と共に出席した。感想は概ね委員長と同じである。沖縄のパーラー公民館は、興味深い話であった。

(2) 公民館事業の報告について

【落合事業係長】

今回は、3館で7事業を報告させていただく。緑分館から3つの事業の詳細報告をさせていただく。

【伊藤緑分館長】

4ページ目をご覧いただきたい。

委員長からの、市民参加の公民館運営の、一つとして、市民講座「古都奈良の歴史探訪・公民館deおとの修学旅行」で、おとの修学旅行をキーワードとして、定員30人のところ、86人応募となり、定員を40人として、厳正なる抽せんを行った。

企画実行委員提案のテーマで、講師は、市内在住で小金井市史談会副会長の馬淵さんで、市民の参画の事例となる。

課題としては、資料が多く、学術的な充実した内容で、2回では習得し切れないとの感想やプロジェクターを利用しての上映であったが、場所により見にくいくらいなどの改善要望があった。

男女共同参画教育事業のこがねい保育サポーター養成講座では、きたまち保育サポーターとして、既に6回開催を行っている。今回は定員と応募が同数で、20代から70代の男性を含めた方が受講された。受講後には、保育サポーターとして登録いただいた方もいる。第6次男女共同参画行動計画の「市民がともに参画する地域づくりや市民活動の推進」に沿って、学んだことを実践として生かすという企画となる。

保育サポーターの活動には様々な課題があり、その対応等と一緒に考え改善し、養成講座につなげたらと考えている。

【福井委員】

5ページの話は、16名受講し12名が登録との記載で、10月から一部保育開始されているが、登録者が全て保育サポーターとして活動するのか、実際、保育サポーターとは具体的にどういう活動をされるのか。

【伊藤緑分館長】

2名は既に保育サポーターで、フォローアップ研修を含めた14人が新規で、2名は辞退し12人となっている。きたまち保育サポーターは、1期から6期まで40名程度の方が登録し、新人の方は、その先輩サポーターと一緒に活動することになる。

内容は、講座の前後30分は準備と片付けで、お子さんのその日の体調等の把握、お

やつや水筒の預かり、講座中の前半は自由に遊び、後半は図書館から借りた絵本の読み聞かせによりクールダウンしている。また、保育日誌を記載し、保育中での課題やお子さんの様子を記録に残している。

【福井委員】

男女共同参画の事業で、緑センターでの開催の16名のうち、6名が緑町の方で、ほかの館でも予定があるか、事務局で分かれば教えていただきたい。

【落合事業係長】

保育サポーター事業は、委託事業者で管理され、貫井北分館と緑分館で実施し、ほかの館に広げる予定はない。現在の登録の方を各館での実施の際に派遣する体制は整っている。各館での男女共同参画教育事業は、この保育サポーター事業だけではなく、様々な事業を展開している。

【関委員】

1ページ目の成人教育事業、男女共同参画教育事業、あるいは青年教育事業などの事業は、あらかじめ決まっているものか。先ほど委員長からの、市民のニーズに合わせたフレキシブルな企画提案は実行できるものなのか。

【落合事業係長】

市の事業は大枠で8事業、少年教育事業、青年教育事業、成人教育事業、男女共同参画教育事業、文化活動事業等で区分けされている。

例えば成人教育事業では、市民講座と成人学校があり、それぞれの目的をつくり、それに合わせ講座を展開している。

次回の公運審で講座の立て方等を配付させていただきたい。

【関委員】

企画と事業主体である市の立場、参加する市民の立場があるが、その関わりが分からぬ。これからそういう形で市民が参画し、よりもっとクリエイティブな講座のための視点を次回教えていただきたい。

【大坪委員長】

この後の審議事項の事業計画では、各公民館の企画に対し、内容を精査するというか、確認してその結果の報告を受ける流れになる。

企画や運営の仕方を、次回の説明でお願いする。

【福井委員】

1ページの講座では、男女比のバランスがほぼ同数であるが、均等になるように抽出されているのか。

【鈴木東分館長】

何の作為もなく、たまたま8人と7人の出席者となっている。

【福井委員】

抽出は企画実行委員が携わっているのか。

【鈴木東分館長】

コロナ禍以降は、職員間でカードを用いて厳正な抽せんを行っている。

【大坪委員長】

保育サポーターは、緑分館で動いていただくサポーターの養成の講座であるのか。また、ボランティアなのか報酬を得ているものなのかな。

【伊藤緑分館長】

保育つきの主催講座で保育サポーターをお願いしている。

市民がつくる自主講座も公民館主催講座であるが、基本的には主催側で探すが、見つからない場合は対応することもある。

【落合事業係長】

市民がつくる自主講座は、主催講座に準ずるものなので、訂正させていただく。なお、自主講座の詳細は公運審で審議いただくものとなる。

報酬は、有償ボランティアというイメージで、市の報償基準によるもの。

【大坪委員長】

各公民館の事業に毎回依頼するのか、内容によるものであるか。

【落合事業係長】

全ての事業に保育はなく、子育て世代をターゲットにしている等により企画実行委員とともに検討し、決定する。

【大坪委員長】

前期から言っているが、公民館でせっかく開催される事業であり、幅広い世代や男女関係なく、柔軟に参加者の希望に沿って派遣できれば、市民も参加ができるのではと思う。

4 審議事項

【落合事業係長】

資料2をご覧いただきたい。

今回は、3館10事業で、中には日時が迫っている事業もある。事務局と実行委員及び講師等と調整をするが、まとまる時期がどうしても遅くなってしまったものである。原則3か月程度を目指しているが、ご理解いただきたい。

【大坪委員長】

分館長からもお願いしたい

【鈴木東分館長】

2講座は、来月の4日と9日の開催で、夏の冷房故障による休館の関係で、講師との調整がつかず、ぎりぎりとなつた。

【伊藤緑分館長】

今回、青年教育事業として、若者による自主講座2本を審議いただくが、若者による自主講座で、中学生以上から25歳くらいまでの方々が自ら企画・実施をし、公民館職員がサポートする講座である。

木のおもちゃ工作体験では、学芸大の学生が主体で、作品を持ち帰るので参加費500円となっている。木育がテーマで、廃材を利用するが、森を守るという環境教育的なもの等の説明がされる。

新聞記者の仕事を学ぼうでは、緑センターで若者の集いサークル「わかば」の企画で、メンバーの斎藤陽さんは緑中出身の学芸大の学生で、課題であるSNSの使い方、メディアリテラシー的な説明を含めた講座となっている。

成人教育事業の終活の中の墓じまいは、企画実行委員から、前年度市民講座等に参加の方のアンケートをきっかけとして、講師を探した講座となっている。

外来種が引き起こす身近な影響では、昨今、市内でもアライグマ等が話題で、その実態を知った上で地域課題に向き合い、次世代につなげる行動を考えるという講座である。

【福井委員】

事業係長より、計画は3か月分との説明がされたが、本来、12月と1月、2月だけによかったのではないか。2ページの1行目では11月15日の既に終了した事業まで報告され、事業計画は2か月前には決定しているはずで、9月か10月の公運審で掲載されるべきだと思う。

【武田委員】

青年教育事業の若者による自主講座は、学芸大学の学生が2つ企画し、どういった流れで実際の講座ができているのか教えていただきたい。

【伊藤緑分館長】

若者による自主講座は毎年5月に、市報、ホームページ、SNSで企画を公募するが、届いてほしい世代になかなか届かないのが現状である。木育研究所系は、昨年度も開催し、課題があった中、過去にやったグループ等に声をかけ成立したという経緯がある。

【大坪委員長】

学校と提携したら面白いのでは。

【伊藤緑分館長】

学校への周知は教育委員会を経由してチラシを配付している。緑中にわかば通信で年4回、サークルの募集を行っている。

【落合事業係長】

青年教育事業は、少年教育事業、青年教育事業の2つが若年層を主体とした講座である。いわゆるターゲットや、ふだん公民館を利用されている方への声かけなど、各館で努力しているが難しい。高齢者の利用率が高い中、全年齢に公民館が開かれるような形を、職員、実行委員と共に考えていきたい。

【大坪委員長】

ミニ四駆の話は遊びを通した学び、力学で、うまく情報発信すると中高生も公民館に携わるような、何かヒントがあるよううに思う。このミニ四駆の参加費は、ミニ四駆代であるか。

【村山貫井北分館長】

おっしゃるとおりの材料費である。

【八方事業係主査】

貫井南分館では、高校生世代までの若年層を対象にドローンを学び、飛ばしてみようという講座を実施した。昨年度の実施では全年代で募集し随分集まつたが、今回はそうでもなかった。貫井南児童館と併設しているので、来館の若者に話を聞いたところ、公民館講座の参加についての答えは返ってこなかった。

引き続き、少年教育事業の実施に当たり、公民館だけでなく児童館職員とも連携し、一緒に取り組んでいきたいと考えている。

【落合事業係長】

ターゲットを高齢者、就労層に絞るなど、いろいろなパターンはあるが、最近の在り方は、その方の興味が大きい。

市民アカデミーに参加した方を対象に準備会を設け、継続的に公民館に参加できるようなものをつくっていたが、公民館事業には興味がないこともある。興味を持たせる方法、公民館にとどめていくのかを、今後考える必要性を事務局側の一つの意見、問題点という形で捉えており、御協力をお願いしたい。

【池本委員】

次回、公民館の事業を資料等で説明していただくが、事前に質問したい。

時間が合えば行ってみたい講座があるが、講師の探し方や考え方などをどう決めているのかが見えていない。苦労されているのはよく分かるが、理由が分からない。事業区分が分かれるのは分かるが、その辺がどうなっているのか。

また、この保育サポーターは公民館だけで、違うところでは使えないものか。

【落合事業係長】

公民館保育サポーターは、あくまでもボランティアで、公的な資格ではない。公民館の事業に関して、保育のサポートをしていただくという考え方である。

【大坪委員長】

次回に事業構築の流れもお願いする。

【嶋田委員】

貫井北分館の親子で参加できるウクレレの教室は10組となっているが、1組とは保護者1人と子ども1人というイメージなのか、子どもが何人でも1組か。また、ウクレレの用意については自分で持ってくる方もいると思うが、全員分用意してもらえるのか。

【村山貫井北分館長】。

親子とは、保護者1名、子ども1名となる。

また、ウクレレは全て先生が無償で用意してくれる。

【小勝委員】

事業係長に質問で、先ほどの公民館にとどめるという話は、具体的にどういうイメージであるのか。興味のある、続講座であればと思う。事業報告の古都奈良の講座は、倍率が高く、シリーズにすると利用者も増えていくのではないかと個人的に思うが、違う感じであるのか。

【落合事業係長】

主催講座の開催ははじめの一歩で、そこで興味を持った方が、参加者でサークルを立ち上げる自主的な学習の場の提供が、主催事業の大きな役割に当たる。

講座の興味を大きくさせることは大事であるので、満遍なくやっていかなくてはならない。ただ、予算の関係上、続けたくても続けられない部分もある。公民館で自主学習の活動をされるサークルが増えれば、公民館にとどまるというところになる。

連続した講座に関しては、連続していいが、多方からのアプローチも大事である。

今回の報告のおとなの修学旅行では、多くの応募があったが、募集しないとわからない。今までの連続講座は、3年間で切り替えるパターンが多かったが、絶対ではないので、その辺も含めよりよい事業の方策を考えていきたい。

【小勝委員】

イメージが湧きました。

【川上委員】

乳幼児や小学生の親子での講座は、評判もいいが、中学生以上になると公民館よりもということになるが、例えばやり直しの英文法など、抜け落ちてしまった学びを、長い休みを利用した講座があれば、ありがたいと思う。図書館に行きがてら、学びにつながるような講座が増えるといいと思う。

【大坪委員長】

貴重な御意見である。

それでは、公民館事業計画について、承認ということでよろしいか。

(異議なし)

5 その他

【諒訪庶務係長】

東センターは、全館で空調機器が故障している。10月から開館し講座等を再開しているが、1月4日から2月の末まで臨時休館の予定であり、市報でも周知する。

今年度の東京都公民館連絡協議会委員部会の委員は、タイミング的に難しいこともあり、委員の選出はせず、事業係職員が対応する。また、この協議会の研究大会は2月7日の（土）に西東京市で行う予定である。

次回は令和8年1月21日（水）午前10時から公民館本館で予定している。

【福井委員】

前回の都公連委員部会報告で質問した他市の公民館だよりの状況として、国分寺市公民館で資料を頂いた。月2回の市報のうち、15日号に公民館だよりが掲載され、多くの市民が見られるということで、参考になる。こういったアイデアを採用すれば、公民館活動が積極的に参加できるような要因の一つにもなるのではないかと、以前から提案しているので、検討していただきたい。

【落合事業係長】

国分寺市と東大和市がそういう感じであるが、小金井市も社会教育だよりとして、市報の一番裏面に載っていたこともある。その後の経過は不明であり、復活できるかも含めて研究したい。

【福井委員】

前回、川上委員が、西山佳孝さんのプロフィールを質問されたが、公民館のしあさってプロジェクトのコアメンバーの一人で、補足すると、公共施設、特に公民館の制度設計の専門家である。市とは違う視点から、公民館は楽しさを提供する場でもあることを、独特な公民館の使い方で紹介している。

また、経済産業省、特許庁にアドバイザー的に参加されていて、今後何かあれば、そういうルーツで、西山さんを講師として学ぶことも必要かと思う。

【池本委員】

事業係長からの公民館だよりが市報に掲載されなくなってしまったという話は、知っている。最近では文字も大きく、カラーになって良くなっているが、掲載量が既に飽和しているのではないか。お金の問題もあるので、簡単には言えない。

公民館の有償化の話は、何をもって有償化を考えるのかという下地がないので、今後どういった話になっていくのか。

【大坪委員長】

公民館の受益者負担、有償化については、第37期以前の6期ぐらいにわたり検討し、ある程度形が見えたので、受益者負担を進めていきましょうという提言書を第37期で提出した。この先、市議会で扱われるが、何か新しい議題がない限りは、基本的には取り上げることはないので、御理解いただけたらと思う。

【大坪委員長】

それでは、第38期第2回公運審を閉会とする。活発な御意見ありがとうございました。

―― 了 ――